

「原発輸出は犯罪的」

都内でシンポ 神学者の渡辺さん批判

シンポジウム「原発輸出問題を考える」（「原発メーカー訴訟」の会主催）が東京都新宿区の信濃町教会で開かれた。

夫さん（同会会長）が「（人間の思想史の中で）原発輸出は犯罪的な計画だ」と批判した。

また同会が米GE、日立製作所、東芝を相手に提訴を予定している訴訟について島昭宏弁護士が説明し約百人の来場者に賛同を求めた。

日本キリスト教協議会平和・核問題委員会、NNAAJなど協賛。

基調講演で渡辺さんは「原爆や原発の製造は人間の思想史から言って、以前の人間が考えもつかなかつたともでもないことだ。この精神構造の違いを究明することが大きな課題

2013年10月26日 東京新聞（朝刊）



原発の海外輸出問題などについて話し合われたパネルディスカッション＝東京都新宿区の信濃町教会で

上で、「原発を輸出する思想は有害なものを外へ持ち出すことで国内の資本が利潤を生む。危険で犯罪的な考え方だ」と指摘した。

「原発メークター訴訟」について島さんは「原発の製造者は原子力損害賠償法（原賠法）によって賠償責任が一切免除されていて、製造者の免責について米国などから強い要請があつたからだ。法律の内容だけではなく、法律制定の経過も不合理だ。憲法が保障する人権を侵害している」と提訴理由を説明。さらに「精神的被害を受けたとして国外から原告に加わってもらい、問題意識を共有したい」と話した。

この後、島さん、渡辺さんのほか、FOEジャパンの満田夏花さん、NNAAJの崔勝久さんらによるパネルディスカッションがあり、来場者と質疑応答した。